

観天 望気

農の安定と食文化の創造

ハウス食品グループがお届けしている製品の原材料の多くは植物（野菜やスパイス）で、それらは畑から得られるものです。従いまして、昨今の気候変動が畑（農業）にもたらしていることは、原材料調達の不安心として、直接つながってきております。そして、それだけでなく、この気候の急激な変化は、食品を提供することに携わるものとして、「将来の食」の不安心を想起させます。

そんな中、食卓に近いところで活動を続けてきた食品メーカーならではの視点から、微力ながらも農業の持続性にお役立ちすることを目指し、気候変動の中での生産の安定（農の部分）への研究開発と、生産された農産物がより価値あるものとして受容される（食卓の部分）ための価値付けの組み合わせを進めております。

レトルトカレーの工程トラブルを起点とした研究から「涙のでないタマネギ」を開発し、そのタマネギをお客さまへお届けする中、生産の安定と生産物が価値を持つて受容されることの両方が必要と感ずるようになりました。具体的には、タマネギ生産の一つ一つの手順を数値に換え、次の一手を見つけていくことと耐候性のある品種改良で生産の安定へつなげ、収穫されたタマネギはどうやって食べるのがおいしいのかを説明していくことの両方を進めています。

同様の活動は、山椒の新たな産地形成にも生かしています。産地、大学と一緒に、バリエーション全体をつなげ、ジャパニーズスパイスである山椒の価値を最大限に引き出し、魅力を発信しています。日本の食文化の保全と拡大、さらに地域の魅力発信、農業分野の担い手創出などへ進めたく思います。

私どもは、創業以来、「日本中の家庭が幸福であり、そこにはいつも温かい家庭の味ハウスがある。」という創業の志を脈々と受け継ぎ、常に時代の課題に挑戦し、新たな食文化を創造してきました。そこで培ってきた研究知見と食卓価値の創造を野菜の場に拡げ、農と食のサステナブルな連携をくみ上げてまいります。



山口 竜巳

ハウス食品グループ本社株式会社 取締役
研究開発本部長 アグリビジネス推進部担当

やまぐち たつみ

東京都出身、1988年入社。主に営業、製品開発、新規事業開発、海外事業の各部門での経験を経て、2020年6月に当社取締役役に就任。24年4月から研究開発本部長（現任）を務め、R&D機能の強化や新規事業の発掘、アグリビジネス開発を推進している。